

群 教 セ	G02 - 02
	平24.246集

# 社会的事象を考え、表現する力を 高める指導の工夫

— 課題に目を向け、その解決策を考える

「未来へのアドバイス」を取り入れて —

長期研修員 高畑 辰弘

## 《研究の概要》

本研究は、小学校社会科の学習において、課題に目を向け、その解決策を考える「未来へのアドバイス」を取り入れることを通して、社会的事象を考え、表現する力を高めることを目指したものである。具体的には社会的事象について課題を見だし、現状と人々の願いや工夫、努力に関する情報を調査し、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を、練り上げた後、「未来へのアドバイス」を作成し発信する活動を行った。

**キーワード** 【社会—小 社会的事象 未来へのアドバイス 課題 解決策】

## I 主題設定の理由

学習指導要領（小学校社会科）では、「社会的な見方や考え方を養い、そこで身に付けた知識や技能などを活用し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培うこと」が示された。また、平成24年度群馬県学校教育の指針（社会科）では、「調べたことや考えたことを表現する活動」の充実が重点となった。このように、社会生活や現代社会の課題とその解決策などを考え、中心となる問いの答えを、根拠や解釈を基に自分の言葉で表現する場を、意図的に設ける指導の工夫が求められている。

協力校の実態を見ると、身近な地域学習や自分の生活に関係が深い事象を取り上げた学習では、意欲的に取り組むことができる。また、資料から情報を読み取ることはよくできる。しかし、情報を活用し、考える力は十分とは言えない。さらに、社会生活や現代社会の課題とその解決策を考えることや、考えたことを表現することには慣れていない。社会的事象を認識させるだけでなく、社会的事象がもつ課題に目を向け、その解決策まで考え、表現させていく指導の充実を図ることが課題である。

日本は近年、止めどなく変化する国際状況のあおりを受け、特に経済面で伸び悩む現状が見られる。国内でも課題を抱え、将来が不透明な状況に置かれている。我が国の未来のためにも、そして、持続可能な社会を構築するためにも、社会的事象のもつ課題を見だし、その解決法を探り、解決策を発信することを通して社会的事象を考え、表現する力を高める指導を工夫していくことが大切であると考えられる。

そこで、現状を把握するだけでなく、課題に目を向け、課題の解決策としての「未来へのアドバイス」を考えていく学習が必要であると考えた。

初めに、現状をよりよくするための目標に目を向けることで課題を見だし、解決策を考えて未来へアドバイスしようと投げかける。次に、現状や人々の願いや工夫・努力を探りつつ、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を考えて作成・発信する。このようにして学習を進めることで、課題を見出す力と情報を活用し考える力を基にして、社会的事象を考え、表現する力が高まっていくと考える。

以上のことから、本研究では、課題に目を向け、その解決策を考える「未来へのアドバイス」を取り入れることによって、社会的事象を考え、表現する力を高めることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

小学校の社会科の学習において、社会的事象を考え、表現する力を高めるために、課題に目を向け、その解決策を考える「未来へのアドバイス」を取り入れることの有効性を明らかにする。

### Ⅲ 研究の見通し

- 1 「つかむ」過程において、事前調査の結果を基に人々の思いや願いをつかみ、現状のどこをよりよくしていけばよいのかを考えることによって、社会的事象がもつ課題を見いだす力を育てることができるであろう。
- 2 「追究する」過程において、「未来へのアドバイス」の作成に向け、必要な情報を入手するために調査し、それを基に、社会的事象の現状と人々の願いや工夫、努力を探り、現状をよりよくするための方法を話し合うことによって、情報を活用し社会的事象を考える力を高めることができるであろう。
- 3 「まとめる」過程において、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を練り上げ、「未来へのアドバイス」を作成・発信することによって、社会的事象を考え、表現する力を高めることができるであろう。

### Ⅳ 研究の内容

#### 1 社会的事象を考え、表現する力について

本研究では、社会的事象を考え、表現する力を「課題を見いだし、情報を活用し考えたことを、言語や絵図・表などで適切にまとめる力」ととらえた。まず、人々の思いや願いをつかみ、現状のどこをよりよくしていけばよいのかを考え、解決すべき課題を見いだす。次に、必要な情報を入手するために調査し、そこから得た情報を基に、今の自分たちの立場、働いている人の立場、未来の世の中を担っていく立場などから現状をよりよくするための方法を見つけていく。このような学習を通して、課題を見いだす力と情報を活用し考える力が高まると考える。さらに、これらの力を基にして解決策をまとめ、練り上げ、「未来へのアドバイス」として作成・発信することにより、社会的事象を考え、表現する力は高まると考える。

#### 2 課題に目を向け、解決策を考える「未来へのアドバイス」について

##### (1) 課題に目を向けることについて

本研究における課題に目を向けるとは、社会的事象における現状のどこをよりよくしていきたいのかを考えることである。社会的事象に携わる人々が工夫し努力している理由は、人々の思いや願いを実現するためである。よりよい社会の実現に向けての、より多くの人々の思いや願いを受けた現在、そして今後の取組を、それぞれの社会的事象がもつ課題であるとしてとらえる。

##### (2) 「未来へのアドバイス」について

「未来へのアドバイス」とは、現状のどこをよりよくしていけばよいのかを考えた提言である。社会的事象から見いだした課題について、次世代の利益や権利を損なうことのない有効なアドバイスを考え、表現し、発信するものである。社会的事象に携わる人々に対しての提言を行うものとし、様々な立場で広く考えることができるよう、これから学習する内容と関係の深い施設などの責任者の立場に立ち、作成するものとする。

##### (3) 「未来へのアドバイス」を取り入れた学習の進め方

まず、「つかむ」過程で、大人になった頃に、よりよい世の中になるように「未来へのアドバイス」を作成・発信していくことを伝える。また、社会的事象についての事前調査を基にして人々の思いや願いをつかみ、現状のどこをよりよくしていけばよいのかを話し合う中で、単元で扱う社会的事象について課題を見いだす。次に、「追究する」過程では、必要な情報の調査をし、社会的事象の現状と人々の願いや工夫、努力を探り、そこから得た情報を活用しながら課題の解決策を考える。そして「まとめる」過程で、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を発表し合い、友達

や保護者から助言をもらい、自分の考えを修正した上で「未来へのアドバイス」を作成する。この学習の進め方は、様々な単元に取り入れることができると考える（表1）。

表1 「未来へのアドバイス」を各単元に取り入れた例（抜粋）

単元名	見いだされる課題	作成する立場 発信する相手	予想される「未来へのアドバイス」の要旨
「未来へのアドバイス」作成の目的：大人になった頃に、よりよい世の中にするための提言をする。			
スーパーマーケットたんけん (3年生の例)	○買い物がしやすく便利でエコなお店づくり ○新鮮で安全でおいしい物が買えるお店づくり	スーパーマーケットの店長	○お総菜を注文できるスーパーを考えたよ。 ○さらに新鮮な物を売りたいな。 ○福祉面を工夫し、だれもが利用できる店にしたいな。 ○さらにリサイクルを充実させたお店を考えたいな。
交通事故をふせぐ (4年生の例)	○事故防止や犯罪防止のための仕事の工夫	警察署長	○事故防止のため、放課後のパトロールを強化するよ。 ○住民の方の話をよく聞いて、住民の安全を守るよ。
日本の水産業 (5年生の例)	○漁業制限の中で水産業をさかんにする工夫 ○資源を守る工夫 ○輸送や販売の工夫	水産加工会社の社長	○育てる漁業に力を入れ、品質ばかりでなく、生態系も考え、育てる魚の種類を工夫して養殖をするよ。 ○輸送面だけでなく、パックの仕方も工夫し、とれたての味が届けられるようなアドバイスをするよ。

また、「未来へのアドバイス」作成までの手引き書として「アドバイスガイド」を児童に配付し、活用していく。これは、情報の調査の仕方、よりよくする方法の見付け方、「未来へのアドバイス」の表現の仕方や評価の仕方などを、学習を進める中で確認することができるようにしたものである（図1）。

課題を見つけよう

自動車工業の課題  
○○○な車をつくること

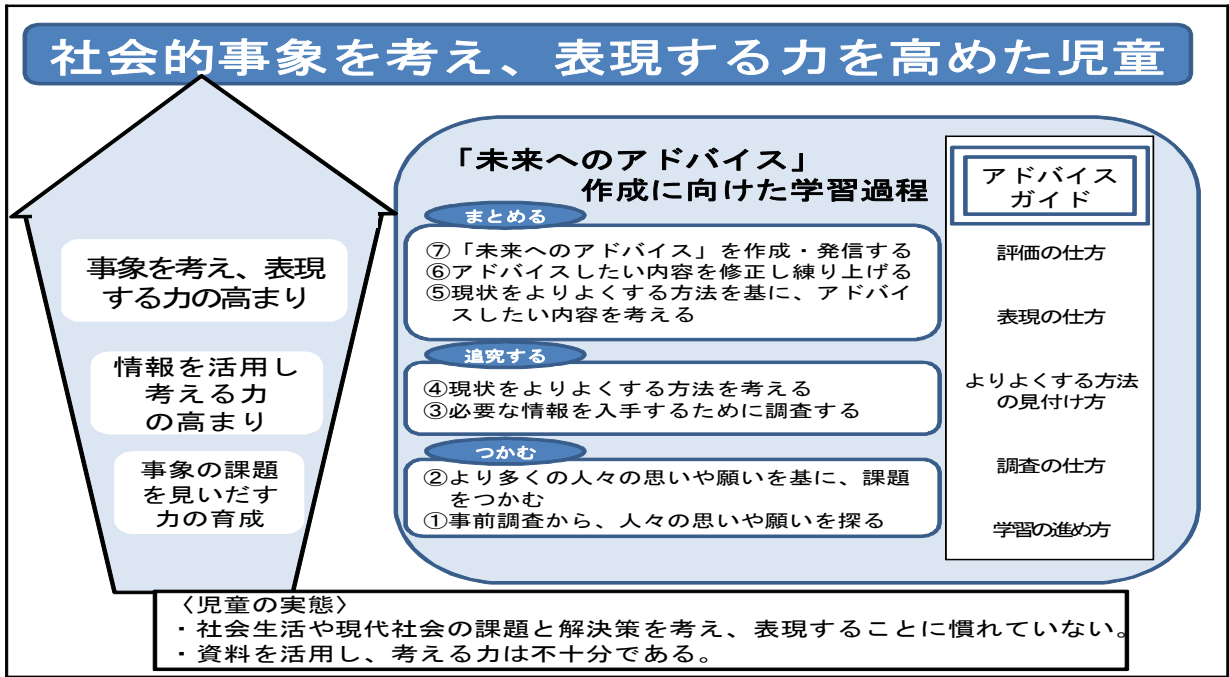
「未来へのアドバイス」をつくってみよう

レベル	とくちょう
5 すばらしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した中で、3つ以上の内容から「未来へのアドバイス」をつくっている。</li> <li>「もし、～がなかったら・・・」とか「これを～のように利用すれば・・・」などのように、自分の考えを相手に伝える工夫が見られる。</li> <li>絵を見るとアドバイスの内容がさらによく分かる。</li> </ul>
4 よい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した中で、2つの内容からつくっている。</li> <li>「もし、～がなかったら・・・」とか「これを～のように利用すれば・・・」などのように、自分の考えを相手に伝える工夫が見られる。</li> <li>絵がアドバイスの内容に合っていて、分かりやすい。</li> </ul>
3 合格	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した中で、2つの内容からつくっている。</li> <li>アドバイスしたいことが書けている。</li> <li>絵がアドバイスの内容に合っている。</li> </ul>

図1 5年単元「自動車工業」における「アドバイスガイド」（抜粋）

このように、「未来へのアドバイス」を取り入れ、社会的事象がもつ課題に目を向け、解決策を考える学習を進めることにより、主題に迫ることができると考える。

### 3 研究構想図



## V 研究の計画と方法

### 1 実践計画

対象	研究協力校 小学校第5学年 35名
期間	平成24年10月2日～10月26日 11時間
単元名	「自動車工業」

### 2 抽出児童

A	社会的事象について考えたり、表現したりすることが苦手である。友達と協力し、考えたことを練り上げる中で、助言を参考にして「未来へのアドバイス」を作成することによって、社会的事象を考え、表現する力を高めていきたい。
B	社会的事象について考える力は十分あるが、考えたことをまとめて表現することに慣れていない。目的や方法、相手を意識し、情報を調査して、現状をよりよくするための方法を考え、それを基に「未来へのアドバイス」を作成することによって、社会的事象を考え、表現する力を高めていきたい。

### 3 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「つかむ」過程において、事前調査の結果を基に人々の思いや願いをつかみ、現状のどこをよりよくしていけばよいのかを考えたことは、社会的事象がもつ課題を見いだす力を育てることに有効であったか。	・ワークシートの記述内容 ・活動状況の観察
見通し2	「追究する」過程において、「未来へのアドバイス」の作成に向け、必要な情報を入手するために調査し、それを基に社会的事象の現状と人々の願いや工夫、努力を探り、現状をよりよくするための方法を話し合ったことは、情報を活用し考える力を高めることに有効であったか。	・「未来へのアドバイス」の記述内容 ・記録用ビデオ
見通し3	「まとめる」過程において、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を練り上げ、「未来へのアドバイス」を作成・発信したことは、社会的事象を考え、表現する力を高めることに有効であったか。	・自己評価カードの記述内容

#### 4 単元の目標及び評価規準



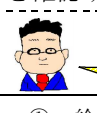
##### (1) 単元の目標

自動車の生産について関心をもち、生産の様子や工夫などについて調べ、これからの自動車工業を、安全や環境などの観点から考えることで、自動車生産が国民生活を支える重要な役割を果たしていることについて、理解することができるようにする。

##### (2) 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
我が国の自動車工業の様子に関心をもち意欲的に調べ、自動車工業の発展を考えようとしている。	我が国の自動車生産の様子から課題を見だし追究し、思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	我が国の自動車生産の様子を適切に調査したり、地図や統計などの基礎的資料を活用したりして、必要な情報を調べている。	我が国の自動車生産は国民生活を支える重要な役割を果たしていることを理解している。

#### 5 指導計画

過程	時	学習活動	研究上の手だて は「アドバイスガイド」の抜粋
つかむ	1	<p>○自家用車の購入理由について、保護者に事前調査したことを伝え合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈事前調査の結果例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・燃費がよくて、環境にいいから。</li> <li>・衝突安全ボディーだから。</li> <li>・高齢者が乗り降りしやすいから。</li> </ul> </div> <p>○自動車工業の課題を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈見いだされる自動車づくりの課題例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境にいい車をつくる。</li> <li>・安全な車をつくる。</li> <li>・だれもが乗りやすい車をつくる。</li> </ul> </div> <p>○「未来へのアドバイス」を作成していくことを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自動車工業のことや人々の努力や願いについて学習し、未来へアドバイスしよう。</p> </div> <p>○「未来へのアドバイス」は、自動車メーカー社長の立場で作成して伝え、自動車工場見学時に、自動車メーカーの方にも渡すことを知る。</p>	<p>○社会的事象がもつ課題を見いだすことができるよう、事前調査の結果の見方や考え方を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>より多くの人の思いや願いは何だろう。 結果をよく見て考えよう。</p> </div> <p>○大人になった頃、よりよい世の中にできるように、自動車工業の課題を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>買い手の人々の思いや願いがかなうためには、どんな車をつくれればいいだろう。</p>  </div> <p>○見通しがもてるよう、学習の進め方を確認する（P.3 図1 参照）。</p>
追究する	2 3 4	<p>○自動車生産の様子を、組み立て工場、関連工場、工場立地条件の面から調べ、分かったことを基によりよくする方法を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈児童の発言例①〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境面、安全面、福祉面にさらに配慮できるように、高度な作業が可能なロボットを開発したい。</li> <li>・関連工場の技術も、さらに高めたい。</li> <li>・さらに作業効率が上がる工場にしたい。</li> </ul> </div>	<p>○消費者の思いを受け、自動車づくりの現状や自動車づくりに携わる人々の願い、努力を理解できるよう、資料の読み取り方や、調査の仕方を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>資料を読み取ろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>① 絵図やグラフの調べ方は・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表題や数字と単位などに注意しながら、見方を確認し、何が分かるのかを考える。</li> </ul> </div>

5 ○今どのような自動車がつくられているのかを、福祉、安全、環境の面から調べ、分かったこと  
6 を基に、よりよくする方法を考える。

〈児童の発言例②〉

- ・どんな人でも運転できる車をつくりたい。
- ・交通事故を起こさない車をつくりたい。
- ・地球環境がよくなる車をつくりたい。

7 ○自動車はどこへ、どのようにして送られるのか調べ、分かったことを基に、よりよくする  
8 方法を考える。

〈児童の発言例③〉

- ・世界のみんで協力して、自動車づくりをしたい。
- ・人々や地球に優しい自動車をつくりたい。
- ・多様なニーズに合った自動車を、世界中の人々に届けたい。

※調査班で調べ、学習グループで、よりよくする方法を考える。

まとめ

9 ○アドバイスする内容を考え、伝え合う。

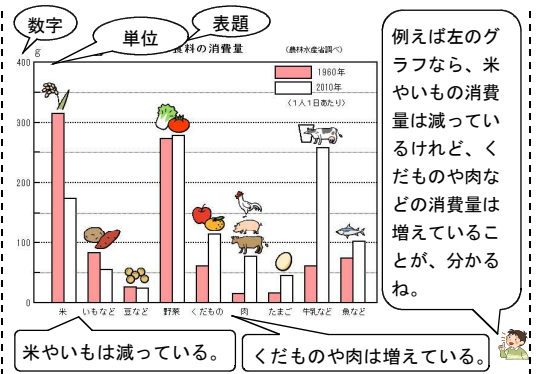
〈児童が考える内容例〉

- ・技術力を高め、太陽光を利用する。
- ・スピードを出していても、事故が起きない車を考える。
- ・お年寄りや体が不自由な人でも、乗り降りしやすく、くつろげる車をつくる。

10 ○助言を基によりよくする方法を修正し、「未来へのアドバイス」を絵と文で、個々に作成する。

11 ○「未来へのアドバイス」を発表し、評価し合う。

○自動車工場見学時に、自動車メーカーの方々へも「未来へのアドバイス」を発信する。



米やいもは減っている。 くだものや肉は増えている。

○消費者の思いを受け、自動車づくりに携わっている人々の努力や願いを確認するよう助言し、自動車づくりの現状をよりよくするための考えを、まとめることができるようにする。

分かったことをもとに、未来をよりよくする方法を考えよう。

人々は、何を願って、どんな努力や工夫をしているのかな？

どうすれば、よりよい未来にするための車づくりができるのかな？

○よりよくする方法を、まとめることができるよう、これまでの発言①②③を基に、今の自分たちの立場、働いている人の立場、未来の世の中を担っていく立場などから考える。

○よりよくする方法の修正と練り上げに役立てるため、取り入れたい内容は、友達だけでなく保護者にも知らせ、助言をもらう。

○よりよく作成できるよう、レベル表 (P.3 図1 参照) や見本を参考にする。

**未来の農業へのアドバイス**

日本の農業の課題は、外国からの農産物との競争や日本人がお米のご飯をあまり食べなくなったこと、それから、農業をやる人がお年よりばかり



になっていることです。わたしは、お米づくりに力を入れたいと思います。機械化と品種改良を進めて、おいしく、栄養があつて健康によく、病気にも強い米をつくります。

○適切に評価し合うことができるよう、レベル表を参考にする。

作品を見直したり、友達の考えや作品を評価し助言したりするときに、レベル表を活用できるよ。

学習したことをもとに、三つの内容からアドバイスが書いてあるかな。



## VI 研究の結果と考察

### 1 「つかむ」過程における、事前調査の結果を基に、現状のどこをよりよくしていけばよいかを考える活動の有効性について

#### (1) 結果

第1時の「つかむ」過程では、事前調査の結果から自動車工業の課題を見いだす学習をした。第1時ではまず、自家用車に関する事前調査の結果から消費者の思いや願いを考え、発表し合う活動をした。次に、発表された思いや願いを学級全体で話し合い分類・整理した。その結果、消費者は図2のように、「安全の面」「環境に優しい面」「人に優しい面」「個人の好みの面」に関する願いを自動車に対してもっていることが分かった。さらに、より多くの消費者が願っていることは何か、その願いをかなえるために、どんな自動車をつくれればよいかを考えた。多少表現は異なるものの、抽出児童のように、「安全で人や環境に優しい車づくり」に類する、自動車づくりの課題を見いだすことができた(図3)。最後に、学習の見通しがもてるよう、自動車づくりをよりよくする方法を考え、「未来へのアドバイス」を作成し、自動車メーカーへ発信する予定を伝えた。

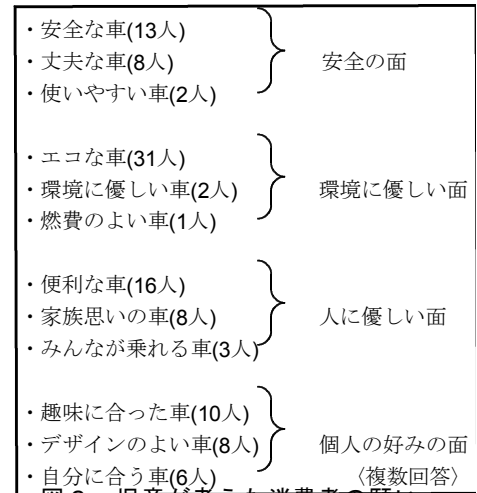


図2 児童が考えた消費者の願い

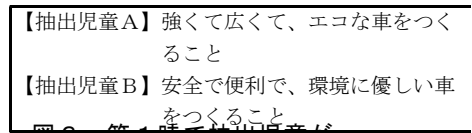


図3 第1時で抽出児童が見いだした課題

#### (2) 考察

自家用車の購入理由についての保護者への事前調査をクラス全員で行ったことにより、より多くの消費者の自動車への願いを、情報として入手することができた。これにより一消費者の目線に立って、どのような自動車をつくれればよいかを考えることができた。また、より多くの人々の願いを受けた自動車づくりの課題もつかむことができた。このように、事前調査の結果を図2のように分類・整理したことにより、消費者の立場から、自動車工業が目指す課題をつかむことができたために、より多くの人々の思いや願いを基に、社会的事象がもつ課題を見いだす力を育てることができたと考える。また、学習のまとめで「未来へのアドバイス」を作成し発信する予定を告げて、今後の学習の進め方を確認したことは、全ての児童が、その後の活動を進める上で効果的であった(図4)。以上のことから、事前調査の結果を基に、現状のどこをよりよくしていけばよいかを考える活動は有効であったと言える。

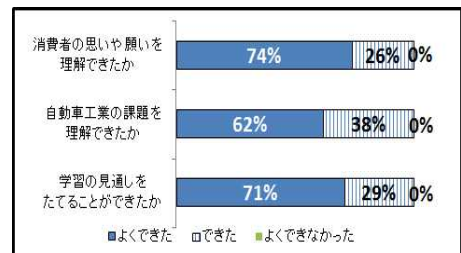


図4 児童による自己評価の結果

### 2 「追究する」過程における、「未来へのアドバイス」の作成に向けて、社会的事象の現状と人々の願いや工夫、努力を探り、現状をよりよくする方法を考える活動の有効性について

#### (1) 結果

「追究する」過程では活動を始める前に、必要な情報の調査の仕方や自動車づくりにかかわる現状をよりよくする方法の考え方を「アドバイスガイド」で確認した。次に、学習グループごとに調査内容を分担し、教科書の文や絵図、写真、表、グラフに限定して、情報を入手した。そして、それを基に、どうすれば、よりよい未来にするための自動車づくりができるのかを、話し合う活動をした。こうした活動を、第2～4時「自動車生産」について、第5・6時「求められている自動車」について、第7・8時「自動車の世界販売」について、合計3回実施した。

現状をつかむ段階でのワークシートにおける抽出児童の記述を見ると、第2・3時、抽出児童A

<現状をつかんだ段階>	<よりよくする方法を考えた段階>
<p>第2・3時</p> <p>【抽出児童A】組み立て工場からハンドルの色や形や数量も決められて注文がくる。自動車に好みがあるため、関連工場はハンドルの種類をまちがえないようにする。</p> <p>【抽出児童B】3万個以上の部品を関連工場から組み立て工場へ運ぶ。自動車を利用する人の好みに合わせて、自動車をつくっている。</p>	<p>第4時</p> <p>【抽出児童A】ロボットを増やして、安全につくる。新素材を使って、<del>軽くして事故のしゅうびきをおさえて</del>、交通事故にあってもけがをしないようにする。</p> <p>【抽出児童B】1つのロボットや機械で1台の自動車をつくれるようにすれば、費用は安くなる。部品全部をリサイクルできるようにする。</p>
<p>第5時</p> <p>【抽出児童A】排出ガスを少なくするため、エンジンのつくりを変える。使われない車はリサイクルされる。</p> <p>【抽出児童B】電気自動車が開発され、専用のスタンドや家庭で充電できるようになっている。自動車工場では、天然ガスを燃やした時出る熱を利用して、自動車を生産している。</p>	<p>第6時</p> <p>【抽出児童A】手足の不自由な人がもっと楽に乗り降りできる車や、事故にあってもけがをしない車をつくる。</p> <p>【抽出児童B】使わなくなった部品を溶かしたりせず、新しい車に利用できるようにする。普通の車にバリアフリーの部品を取り付けるだけで、障害者が運転できるようにする。事故を防ぐIT設備をもっと充実させる。</p>
<p>第7時</p> <p>【抽出児童A】車を高速道路で、各地に早く運んでいる。輸送費を少しでも少なくしている。車の主な輸出先はアメリカ。日本と外国の共同の工場がある。</p> <p>【抽出児童B】つくられた車は、キャリアカーや船で運ばれ、半数以上が輸出。鉄鉱石をオーストラリアやブラジルなどから輸入し、自動車をアメリカやロシアなどに多く輸出している。日本の会社はアジアやアメリカに多く進出し、外国と日本が協力し、共同の自動車会社もできた。</p>	<p>第8時</p> <p>【抽出児童A】船で運ぶ時、その会社専用の船をつくり、自動車を運ぶ費用を減らす。日本と他の国の共同の工場を世界中に増やす。</p> <p>【抽出児童B】生産した自動車を、港で積みかえることなく、手軽に海外へ運べるようにする。コンパクトな車をつくり、一度にたくさん運べるようにする。ていけい先の海外の会社にたのんで、現地の材料を安く仕入れるようにする。</p>

図5 抽出児童のワークシートの記述の抜粋

は、図5のようにハンドル工場に関する情報しか見付けることができていることが分かる。抽出児童Bは、「部品を組み立て工場へ運ぶ」と、誤った記述が見られる(図5 線部)。しかし、第5時は、抽出児童Aは、環境に配慮した自動車の現状を記述している。抽出児童Bは、環境に配慮した自動車のみならず、工場についても、情報として正しく入手することができている。第7時は、抽出児童Aは「日本のおもな交通網」「日本の乗用車のおもな輸出先」の二つの資料から、自動車の輸送や輸出に関する現状を記述している。抽出児童Bは、この二つの資料だけでなく、さらに「生産台数にしめる輸出台数」「外国へ進出した日本の自動車会社の工場」の資料から、情報を豊富に入手し、短い文で記述している。

現状をつかんだ後、ジグソー学習を行い、調べたことを生活班の友達に伝えて情報を共有し、消費者や生産に携わる人の願いや努力をヒントに、現状をよりよくする方法を考えた。第4時、抽出児童Aは、効率よく安全な車をつくる考えをもった。しかし、自動車生産の、どのような現状を基に考えた方法なのか不明確だった(図5 線部)。抽出児童Bは、共有した情報から自分で考えたよりよくする方法を、記述することができている。第6時、抽出児童Aは、友達から伝えてもらった情報を基に考え、今後の自動車開発について記述している。抽出児童Bは、環境面だけでなく、友達と共有した安全、福祉に関する情報を基に、自動車生産や開発についてのよりよくする方法を考えている。第8時、抽出児童Aは、情報を共有し、つかんだ現状から自分で考えた方法を記述することができた。抽出児童Bは、現状から考えた方法全てを自分で考え、記述することができた。

このように、情報の調査の仕方や現状をよりよくする方法の考え方を確認し、教科書に限定して入手した情報を基に、どうすればよりよい未来にするための車づくりができるのかを話し合う活動を通して、全ての児童が、現状をよりよくする方法について考え、記述することができた。

## (2) 考察

「追究する」過程では、94%の児童は複数の情報から現状をよりよくする方法をまとめることができた。その理由として、調査範囲を教科書に限定し、調査方法を繰り返し確認したことで、どの



学習グループも、同様の歩調で共通の情報を入手し、それを根拠として、現状をよりよくする方法を話し合う活動を円滑に進めることができたと考える。その活動を3回繰り返したことで、やり方が分からない児童も、調査方法や考え方の手順を友達に確認しながら、必要な情報を正確に入手し、それを根拠に、よりよくする方法を考えることができるようになっていった(図6)。また、第4時は工場で働く人々の立場から、第6時は消費者の立場から、第8時は、生産者だけでなく、輸送にかかわる人々の立場から、というように、それぞれの立場の人々の思いや願いをかなえるためには、現状のどこをよりよくしていけばいいのかを考えたことで、よりよくする方法を具体的に見つけることができたと考える。抽出児童Bのように情報と情報を関連させることによって考えをまとめることができた児童も見られ、情報を活用し、考える力を高めることができたと考える。以上のことから、「未来へのアドバイス」の作成に向けて、社会的事象の現状と人々の願いや工夫、努力を探り、現状をよりよくする方法を考える活動は有効であったと言える。

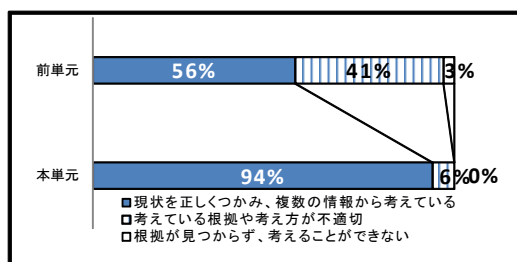


図6 入手した情報から、現状をよりよくする方法を考えることができた割合の変化

## 2 「まとめる」過程における、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を練り上げ、「未来へのアドバイス」を作成・発信する活動の有効性について

### (1) 結果

「まとめる」過程では、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を考え、練り上げ、「未来へのアドバイス」を作成・発信する活動をした。

第9時は、これまでの学習で考えてきたよりよくする方法を基に、自動車メーカーの社長の立場からアドバイスしたい内容を個人で考えた。そして、「未来へのアドバイス」の参考例やレベル表を見ながら、大人になったころの世の中がよりよくなるように、アドバイスしたい内容を、ワークシートにまとめた。次に、考えた内容と、それを考えた理由を生活班の友達に説明し、助言をもらい、それを基に修正した。この結果、抽出児童Aは、友達から、障害者の運転免許取得についての助言を受けたことで新たな考えを発想し、アドバイスしたい内容を追加し(図7 線部)、抽出児童Bは保護者から、分かりやすくなるように、障害者用部品を詳しく書いた方がよい、との助言を受け、分かりにくい部分を省いた上でアドバイスしたい内容を追加した(図7 線部)。

そして、第10時では、「未来へのアドバイス」を作成する作業をした。第11時では、各自が作った「未来へのアドバイス」の作品を友達に発表し、レベル表を基に評価し合った。全ての児童は、現状をよりよくする方法を基に、絵と文で、自分の考えが伝わる工夫をしながら、完成することができた。しかし、消費者や生産者として、これからの未来を担う大人としての立場から多面的に考えることができなかった児童も見られた。レベル表に記載した基準を確認しながら行った友達の作品への評価については、甘すぎたり、逆に厳しすぎたりするなど、個人差が見られた。発表後、友達の助言を聞いて、さらに修正している児童も見られた。

抽出児童Bは、前時で考えたアドバイスしたい内容を文章にし、その内容を絵で、分かりやすく作品に表現することができた。また、一番アドバイスしたいことを具体的に詳しく書いた方がよい

部分は、助言を受け、修正したところ

【抽出児童A】

- ・ロボットが全部つくり安くする。
- ・日本車をもっと有名にし外国との工場を増やす。
- ・障害者に聞いて、車をつくる。障害のある人も簡単に運転できて、免許も簡単にとれる。(追加)

【抽出児童B】

- ・ロボット1台で生産し、安くする。障害対応の部品をつくる。(追加)
- ・その部品を取り付ければ、障害者が乗ることができるようにする。世界の車につけるようにする。(追加)
- ・乗り換えなしで輸出する。(削除)

図7 抽出児童がアドバイスしたい内容を練り上げる様子

との助言を基に、分かりやすい作品にすることを考え、福祉に関係しない内容を削除し、よりよい表現を目指して記述内容の調整をすることができた(図8)。全ての児童は授業終了後、作品を自動車メーカーの方へ発信し、工場見学の際、抽出児童Bは、「よいアイデアです」と賞賛された。他の児童に対しても一人一人貴重な助言をいただいた。

## (2) 考察

「まとめる」過程において、友達の商品の評価の仕方に個人差が出てしまったのは、自分の感じ方が基準になってしまったためであると考え。また、様々な立場に立ったアドバイスを作成できなかった児童がいたのは、自動車メーカーの社長の立場に立つとは具体的にどのようなことなのかを理解することができなかったためであると考え。しかし、「追究する」過程と「まとめる」過程とを比べると、現状をふまえ、人々の思いや願いを受けて、現在、まだ行われていない方法を、考えることができた児童が「追究する」過程より42%増えた(図9)。「未来へのアドバイス」を作成する活動において、一人一人が自力で考え、表現できるように「未来へのアドバイス」の参考例やレベル表を示したり、助言を基に修正できるようにしたりしたことで、どのように表現したらよいか理解し、よりよい未来をつくるために効果のあるアドバイスを考えることは、効果的だったと考える。

以上のことから、未来へのアドバイスに取り入れたい内容を練り上げ、「未来へのアドバイス」を作成・発信する活動は、有効だったと言える。

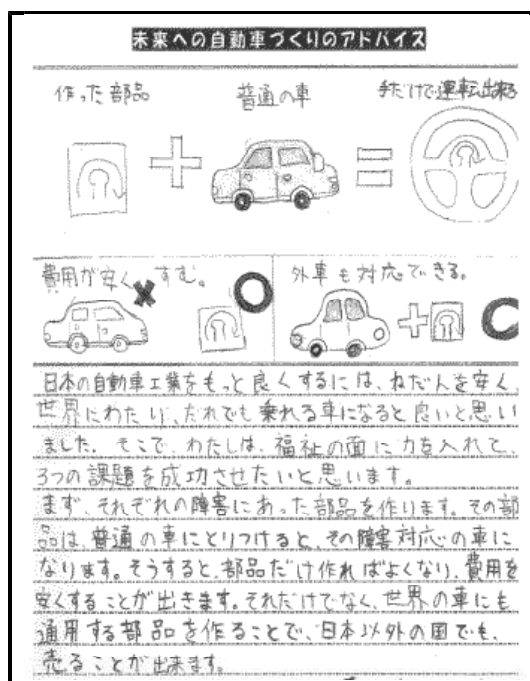


図8 抽出児童Bの「未来へのアドバイス」

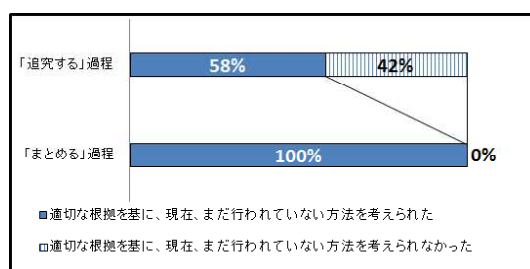


図9 考えを練り上げた児童の割合の変化

## VII 研究のまとめ

### 1 成果

- 人々の願いを基に社会的事象の課題をつかみ、工夫や努力の現状から、人々の思いをかなえるための課題を解決する学習を繰り返したことで、児童は、社会的事象がもつ課題を見だし、情報を活用し考える力を高めることができた。
- 友達や保護者の助言から、「未来へのアドバイス」に取り入れたい内容を練り上げ、それを基に「未来へのアドバイス」を作成・発信したことで、社会的事象を考え、表現する力を高めることができた。

### 2 課題

- 消費者と生産者、そして、これからの未来を担う大人としての立場というように、単元に応じて、施設などの責任者の立場を、具体的に示していく必要がある。
- 自他の「未来へのアドバイス」を的確に評価できなかった児童が見られた。アドバイスガイドの具体例の記述内容を増やすなど、レベル表をより具体的に改良する必要がある。

## <参考文献>

- ・三藤 あさみ、西岡加名恵 著 『パフォーマンス評価にどう取り組むか』 日本標準(2010)